

2. 排便のしくみと脊髄損傷

・腸と肛門の構造

食べ物は胃と十二指腸で消化され、小腸で栄養分を吸収されたあと、水分の多い状態で大腸に入ります。大腸で水分が吸収されて徐々に固形となり直腸に到達します。直腸は便を貯める部分ですが、その先の肛門には括約筋が存在しており、これを締めることで便が漏れるのを防ぎ、ゆるめることで便を排出します。

・排便のしくみ

便が直腸に入ると直腸壁が刺激され、その信号が脳に送られて便意を感じます。排便時には肛門括約筋をゆるめることで直腸に貯まった便が排出されます。この時に意識的にいきむことにより腹圧を高めて便を排出しやすくします。

・脊髄損傷のための排便障害

脊髄損傷患者さんでは、直腸の感覚が鈍くなったり、肛門括約筋を自分の意志でコントロールできなくなったりすることで直腸と肛門の機能に支障が出てきます。その結果、便を溜められずに失禁してしまったり、逆に便が貯まっても便意が生じず、また腹圧がうまくかからずに便を排出できなくなったりします。

